

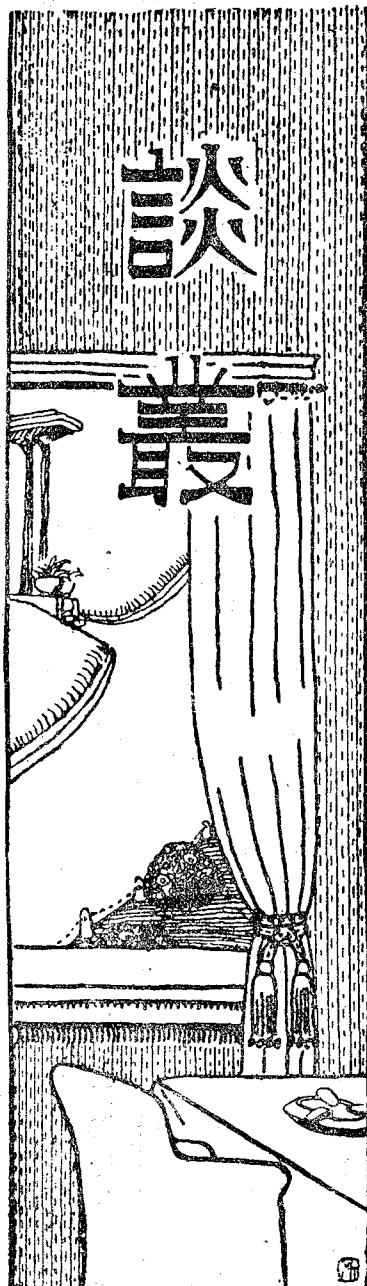
○

道路自から生產せよ

道路改良會評議員
陸軍大將福田雅太郎

吾輩は元來一武辨であつて、道路の改良等の事柄には門外漢である。強ひて意見を述べるならば、軍事的方面より

観察したる道路改良の問題に就てすることが、最も吾輩の立場に相應したる事であるが、夫れは既に參謀本部の當局等に依つて『道路の改良』誌上に遺漏なく發表せられて居



るのであるから、今更蛇足を加ふるを要しない。唯軍事上の見地より觀たる道路改良の點に就ては、參謀本部當局の所見に同感を表するを以て足ると思ふ。

併しながら道路改良會の懇請默し難いものがあるので、吾輩が曾て歐羅巴諸國に於て實感したる所見の一端として道路改良の局に當る人々並に地方自治の發達上に重大なる關係を有すると思考する點を論じて責を塞ぎたい。

○

既に從來本誌上にも幾多の人士に依つて唱道せられたる如く、道路は一國文明の象徴として、その邦家國民の文明程度を代表するものであると謂つて可なりである。道路が荒廢し、又何等の人工的施設を加へざる自然的の道路のみを有する國は、其の文化が未だ非常に低いと謂はざるを得ない。之に反して完全なる道路が國內の隅々まで通じ、たゞひ路幅は狭くとも人爲を加へて築造した道路を有するならば、そは文化の度の大的に進んだ、國家と謂ふことが出来る。

吾輩は亞米利加大陸は一二度通過したに過ぎないが、歐羅巴大陸は兩三度巡遊して諸國概ね足跡を印せざる所はない、それ等各國に入つて一層此の感を深うする。各國の道路を親しく踏破して見ると、實に道路の良否に依つて其國の文化の程度が一目瞭然たるものあるを感じるのである即ち道路は一國文化の象徴と謂ふべきである。

○

翻つて一瞥するに、我國には國道の一部分を除くの外、殆んど道路と名づべきものは見當らぬ現状である。唯自然の土の上を人馬が通行して、其の足跡の爲めに道路を形成したといふ極めて原始的のもので、一朝雨雪に遭遇するや路面は忽ち崩潰して泥濘膝を没し、一たび乾燥すれば則ち黃塵を卷いて咫尺を辨ぜず。大は都會の街路より小は村落の里道に至るまで比々皆然り、是は誠に文明國として遺憾極まる點である。幸にして道路改良會茲に見る所あり、夙に道路改良の急を天下に呼號して大いに輿論を喚起し、又政府當局に獻策して、今や着々として我國の道路改良計畫

が其の緒に就きつゝある事は、吾輩の大いに意を強うする所である。

○ に適當の考慮を拂はねばならぬ。

然るに道路の改良の實を擧げんとすれば茲に巨額なる費用を要するのである。國道は勿論、地方自治體の負擔すべき府縣道、市道、町村道に至るまで、之を完全に築造せんとすれば實に莫大の資を要する。國道の如きは鐵道の建設費に比して略々四分の一の經費がかゝると聞く、府縣道以下も亦之に準じて相當の金を要する。啻に當初の築造に巨資を要するのみならず、一旦改良したる道路に補修を加へて之を完全に維持し、以て人馬車輛の交通に何等の障礙を與へざるやう路面を維持して行かなければならぬ。之が爲には道路行政上大いに意を須ぶべき必要があると信ずるが亦一面之が維持修繕にも妙からざる金が掛る。であるから先づ當初の道路を改良する費用は已むを得ないとしても、少くとも築造後の道路を清潔且つ完全に保つて行く維持修繕の費用は、地方自治體の負擔を重からしめざるやう、茲

茲に於てか吾輩は道路は道路自から生産せよと言ひたい。即ち道路に生産力を與へて之が資を求むるの外はない。道路に生産力を與へんとするには如何にするか、吾輩は道路の兩側に果樹を植ゑよと提唱する。其の果樹をして道路の維持修繕に必要な費用を生産せしめんとするのである。

此の事は歐羅巴諸國では既に早くより一般に行はれて居るのである。普通の旅行者は歐米に遊ぶと言ふも概ね汽車で通過してしまふに過ぎぬが、吾々軍人は彼國の隊付となつて、少くも一年長きは三五年も滞在して、機動演習を始め、あらゆる演習に彼國の軍隊と共に野外に出で、親しく彼國の道路を踏破して居るのであるから、歐羅巴諸國の地方狀態に對する軍人の觀察は極めて周到なるものがあると自信して居る。

其の觀察實見の結果を綜合すれば、歐羅巴諸國に於ては先づ道路の兩側に櫻桃^{さくとう}又は林檎^{りんご}の樹を並木として植ゑるこ

とが普通に行はれて居る。それ彼國の道路が、道路自から生産して居る所以である。

○

我國では從來道路の並木といへば、殆んど松に止めを刺して居る。斯く從來松が専ら並木として用ひられたのは、舊幕時代各藩の國防上の關係その他の原因があらうけれども一體松は道路の並木として他に利用の方法がない。果實も生ぜず、材木にもならず、精々薪として用ひられるに過ぎぬ。又道路に並木を植栽する目的は、夏日路面に陰翳を投じて人馬に涼風を與へることが、一半の目的であるが松は甚だ此の目的に合致しない。何となれば松は常綠樹であつて四季を通じて陰翳を投ずるからである。

○

一體道路は夏日は陰翳を欲するが、冬季は路面の保存上陰翳があつては悪い。冬季は成べく路面は日光に直射して乾燥せしめなければならぬ。二六時中濕潤なる狀態に置くことは路面の衰損を早からしめるが、冬季に於て殊に然りである。故に冬季は乾燥せしめ夏日は陰翳を投ずることが路面保持の原則であらねばならぬ。

○
此點に於て櫻桃の如きは實に理想的の並木である。盛夏蒼々したる枝葉は路面を掩つて適度の陰翳を投じ、冬季路面を乾燥せしむる必要の時期来れば葉は落ちて何等の障礙を路面に與へない。林檎も亦然りである。而して櫻桃は五月の頃其の果實は真紅の光を放つて行人の眼を樂ませ、又熟しては高價に賣却される。林檎も秋季に至れば立派な果實を生じて、是れ亦食用として需要が多い。其の並木に生ずる果實を賣拂へば、以て道路の補修その他の資に充てゝ剩りあるのみならず、又町村自治體の收入を増加することが出来るのである。

○

唯だ茲に問題となるのは氣候の關係である。歐羅巴の諸國と異つて、我國の氣候溫暖の地方には林檎や櫻桃は適せぬ。就中臺灣の如きに於ては殆んど言ふべくして行ふこと能はざる點であらう。併しながら並木としての果樹は獨り

林檎と櫻桃に限るものではない。必ずや我國の氣候に適する果樹なり其他の植物があらう。勿論東北、北海道等に於ては歐羅巴式に林檎又は櫻桃最も可なりであるが、關西、西南の地方に於ても、それゝ研究したならば何等か適當のものがあらうと思ふ。若し他に適當の果樹がなくば、桑或は楮（製紙の原料となる）等を植ゑるも宜からう。こは一に専門學者の研究に委して可なる問題である。臺灣の如きは現に今より二百五十年前、和蘭が臺灣を領して居つた時代に、既に檳榔（ラム）の並木を植ゑて居る。檳榔は非常に美味な果實で、而も長大に成長する果樹であるが、之を並木として道路の兩側に植栽した形跡が今日も尚ほ儼然として遺つて居るのである。況んや臺灣に於ては龍眼肉等、並木としても立派に其の目的を達し、且つ又果實としても需要の多いものが多々ある。

○

此の果樹並木說を提唱すると必ず起る一つの問題は、日本教育の現狀——公德心の程度今日の如きに於ては、路傍に果樹を植ゑんか、未だ結實もせざるに抜き取られ辛うじて結實するも未だ熟せざるに悉く挽取ひきどりられてしまふ、到底その監視監督の煩に堪ふべくもあらずといふ反對論である。併しながら是は甚だ日本人自から己れを侮辱するものであり、又必しも絶対に救ふべからざる問題ではない。即ち一面に於ては今日の教育程度を以て公徳心を鼓吹し、又嚴罰に處するのみならず社會的制裁を加ふるの習慣を作れば、必ず満足に行ひ得ると信ずる。

歐羅巴では現に道路の果實に手を下す者は、多額の罰金を科せられるのである。であるから一般人民が之に手を觸ることなきは勿論、機動演習等に際して道路に整列する騎兵の如きは、鼻の先に櫻桃や林檎の真紅に熟したのがグラフ下つて居る、けれどもそれを取つて食ふが如き者は一人も無い。それは即ち一は村の共同監視が嚴重で之を犯せば厳罰に處せられる事、又一は公徳心の養成が學校教育その他に於て行届いて居るから、能く秩毫も犯す者なきを得て居

るのである。又一面國民教育の見地よりすれば、我國の如きは寧ろ之を以て實物教育の資料とするこども出來る。動もすれば公徳は勿論私徳に於ても缺くるところある大和民族の缺陷を矯正して、良風を養ふところの實物資料にもなるのである。

○

斯の如くして全國の主要なる道路に果樹並木を植栽する

ことが出來たならば、道路の維持修繕の資に困難を感じずして、道路は常に立派に維持せられ、從つて自治團體に過重の負擔を負はしむることなく、以て地方自治の健全なる發達を期せしむる一助ともならうと考へる。

實は之に就ては詳細に歐羅巴の道路に關する實情等を研究して、今少しく具體的に論じて見たいと思つて、過般來内務省或は參謀本部等に問合せて見たが、未だ全く何等の材料も無いやうである。從つて所論の甚だ抽象的なる事を遺憾とするが、吾輩が歐羅巴諸國に於て實見したる所に依れば、彼地に於て道路に果樹を植栽することは數百年前よ

り行はれて居るので、決して近來の文化が開けてからの事ではない。又臺灣の如きは二百五十年前、和蘭の領臺當時既に其の事實あることを見るのである。吾輩は今日に於て是非とも之を我が全國に實施したいと切望する次第である

○

次に序ながら此の機會に街路の改良に關聯して一つの希望を述べたい。

輓近我國の大都市、就中東京市内に於ける街路の改良工事は着々其の計畫を進めて、或は木煉瓦の鋪裝道路、或はアスファルトの鋪裝道路、其の他曰く何、曰く何と、最新の科學と技術を應用したる鋪裝工事が、市内の各所に施されて、日一日と街路の面目を更めつゝあることは、吾輩の頗る欣快とする所であるが、茲に一つの希望を述べて當局者の一考を煩しない事は、大都市に於ける乘馬道の施設に就てである。

最近我國にもだん／＼乘馬熱が高まつて来て、各大學を初め専門學校の學生は勿論、一般紳士淑女の間にも乘馬が

盛んに行はれるやうになつて來た。然るに遺憾ながら東京市の道路改良計畫に就て見るも、乗馬に適する道路の築造に就ては、何等の考慮を拂はれて居ないやうである。現に歐羅巴諸國の都市に於ては、市内の主要なる道路には必ず乗馬道といふものが附設せられて居る。即ち馬は最も蹄を大事にするものであるから、乗馬道は市内に在つても特に鋪装を施さず、街路の一部を區割して此の部分に砂を敷いて以て乗馬に適するやうに設備せられて居る。我國の大都市に於ても、今後次第に勃興して来る乗馬熱の大勢に鑑みて街路計畫の中に乗馬道を施設することは、最も必要且つ適切の事と思ふ。

○

今日は自動車或は飛行機の如き高速度の交通機關が發達して居る。馬などは時代おくれの遺物ではないかと説く人もあるが、決してさうではない。馬匹は當時に際しては最も重要な軍用具となるのであるから、如何に科學が發達しても機械か進歩しても、治に居て亂を忘れざるの覺悟と訓練は之を怠つてはならぬ。

此の見地よりして、殊に都會の地に於て乗馬道を設けて平常の運動訓練に便ならしむることは、我國の街路改良計畫を樹立する上に、必ず一つの要素として考慮されるべき點であると信ずる。迨々現在の改良工事が完成して、市中の道路が悉く硬質の鋪装路面となつたならば、市内に於ては殆んど乗馬は不可能な結果に陥つてしまふ。今に於て速に之が計を樹てられんことを切望に堪へぬ。

○

是は吾輩が身軍人たるの故を以て、徒に自己の嗜好から此の言を成すのではない。乗馬は實に高尚優美なる國民的スポーツである。のみならず之に依つて能く勇壯活潑なる精神を養ふことが出来る。又男女を論ぜず、乗馬に馴れて置くことは、一朝有事の際に處して非常に役立つのである

然らば今茲に東京市に於て乗馬道を設くるとせば、其の計畫を如何にすべきか。固より是は専門家の研究に俟つべきであるが、誠に吾輩の私見を述べるならば、第一に現在

の宮城の内濠——九段坂上より半藏門、櫻田門を経て宮城の周圍を一周する内濠に沿ふ道路の内側、今の柳の下を砂敷の乗馬道とするのである。次に赤坂見附より四谷見附を経て牛込見附に至る外濠の周圍にも第二の環状路を設ける此の内外の二環状路を、九段坂下又は三毛坂の邊に於て連絡する道路を設けて、之と同じく乗馬道とする。更に之を四谷見附の附近より西方に延長して、明治神宮外苑に繋ぎ、外苑の周圍にも亦一の環状乗馬道を設け、進んでは之を代々木の明治神宮より代々木練兵場に導くのである。

斯くして東京市の内外を通じて一つの乗馬道網を設け、

普通の鋪装道路を通過することなくして、自由に乗馬が出来得るやうになつたならば、最も理想的の乗馬道である。

春も過ぎて初夏の頃、濠の柳も新緑に崩ゆる時同好の士と共に三々伍々愛馬に鞭うつて逍遙散策を擅にする、思ふだに爽快の極みではないか。

上野公園の不忍池附近一帯は昨年來改良工事中であつたが、櫻や松の大樹の植ゑ込みも済み、池畔の周圍一哩にはマラソンの練習競走用の道路と、観覧席を兼ねた立派な遊歩道が設けられ、全く面目を一新して春の散歩時の來るのを待つてゐる。

東京市公園課では將來は不忍池と調和のわるい觀月橋を、取殿して天の橋立式の道路を池の中央に新設し池の底を綺麗に浚渫し絶えず、清水を湛へボートを浮べる計畫を立てゝゐる。